

ホンビノスガイ

【見られた地点：①・②】

殻長 10cm。北アメリカ大陸大西洋岸を原産とする外来種で、日本では 1998 年に千葉県で発見されました。現在東京湾では漁獲対象となるほど増加しており、東京湾内の横浜から千葉にかけての砂泥底に多くみられます。汚染に対し強い耐性を持ち、貧酸素環境下でも生息しています。



アサリ

【見られた地点：①・②】

殻長 4 cm。水深 10m までの砂泥底に生息しますが、礫の間のわずかな砂地でも普通に見られます。殻は卵形で厚く、よく膨らみ、殻表面は粗い布目状をしています。潮間帯中部以下の砂地に生息しており、北海道から九州まで分布しています。



オオノガイ

【見られた地点：②】

内湾干潟の泥深い所に生息し、30cm 近くも深く潜っています。殻は大きく、長卵形で、後端はやや細まってががっています。殻質は光沢のない陶器質で、前後端は開いています。殻長 10 cm、殻高 5.5 cm、日本各地に分布しており、食用となります。



【環形動物】ゴカイやミズミズなどの仲間です。体は細長く、多くは海底に生息しています。

ミズヒキゴカイ科

【見られた地点：①・②・③・④】

体長約 40 cm。砂泥中に黄色い体を横たえ、各体節から伸びる薄赤色の鰓（えら）だけを水中に出してイトミミズのように動かし、餌を集めます。砂泥中に生息しています。



オオメケヤリ

【見られた地点：③】

開いた鰓冠（さいかん）の直径 3 cm で、本州中部以南に広く分布します。各鰓糸（さいし）の先端近くに 1 個の大きな暗紫色の眼点があります。



ケヤリムシ科

【見られた地点：①・②・③・④】

粘膜質の棲管（せいかん：巣）を作り、その中に棲みます。頭部には多糸上の鰓冠が発達し水中で広がって懸濁物を集めて餌とします。



カンザシゴカイ科

【見られた地点：①・②・③・④】

カンザシゴカイ科の多毛類はみずから石灰質の棲管を分泌しその中に棲みます。虫体の形状はケヤリムシ科に似て頭部には鰓冠を頂き、体は胸部と腹部に区別され、鰓糸の一部は変形して棲管の蓋（殻蓋）として機能します。

